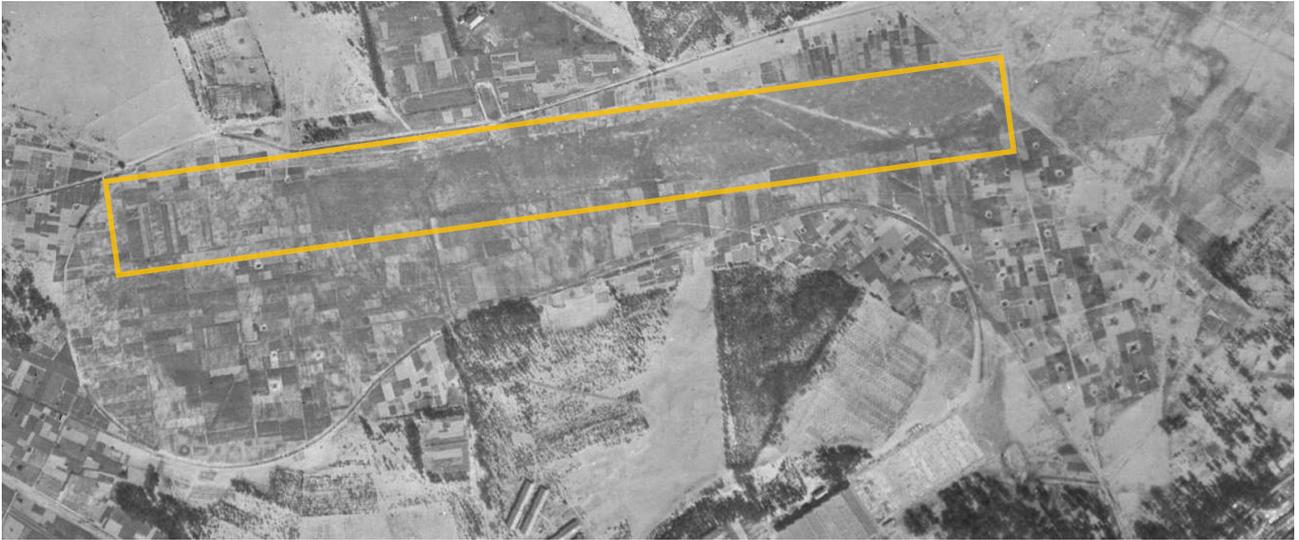




鳥取市営飛行場



昭和 22 年撮影



昭和 62 年撮影

賀露町にある飛行場は、1942（昭和 17）年に福田軽飛行機株式会社が試験滑走路を作ったのが最初です。その後、日産輸送機株式会社が継承して陸軍航空機練習機飛行場となり、1957(昭和 32)年には、鳥取市営飛行場として供用が開始されました。

鳥取県は近代的な地方空港の設置を目指し、市営飛行場の約 500m 北側の現在地に県営鳥取空港を設置。1967(昭和 42)年 7 月 31 日に供用を開始しています。

鳥取市営飛行場は 1964(昭和 39)年に廃止となり、跡地は住宅地となりました。この住宅地は、鳥取市営飛行場の上に造成されたため、現在も滑走路の形状を残しています。

沿革

- 1942 (S17) 鳥取市湖山町字白浜に福田軽飛行機株式会社が試験滑走路 (L=750m、W=30m) 設置
- 1944 (S19) 日産輸送機株式会社が継承。戦時輸送機工場併営と共に陸軍航空機練習機飛行場となる
- 1945 (S20) 勸業建設株式会社が継承。陸軍不時着飛行場として利用
- 1952 (S27) 鳥取市営飛行場化への運動開始
- 1957 (S32. 1) 鳥取市営飛行場設置申請書を運輸大臣あて申請
- 1957 (S32. 5) 市営鳥取飛行場設置許可
- 1957 (S32. 7) 市営鳥取飛行場 (G 級、不定期、L=960m、W=30m) 供用開始認可
- 1963 (S38) 鳥取県が近代的地方空港開設企画のための調査を開始
- 1964 (S39. 11) 鳥取県営鳥取空港設置申請書を運輸大臣あて申請
- 1964 (S39. 12) 市営鳥取飛行場廃止
- 1965 (S40. 2) 旧飛行場の約 500m 北側の現在地に県営鳥取空港の設置許可
- 1967 (S42. 3) 工事完成 (L=1, 200m、W=30m)
- 1967 (S42. 7) 県営鳥取空港供用開始(1, 200mx30m)

平成十三年公民館編集製本「昔の思い出」より

一区 大谷みさえさん (昭和二年生まれ) の話

現在湖東中学校の建物がある所は、戦時中、福田軽飛行機製造工場があり、多くの人たちが働いていた。他県から来て働いていた人たちの住む社宅が建つ所は、以前は畠であった、今の七区に建ち並び、そこで生活をしながら、戦争に使う飛行機の製造に一生懸命工場で働いていた。しかし敗戦となり、その工場は閉鎖され、社宅であった建物は市営住宅として鳥取市が管理していたが、住んでいた人たちに払い下げとなり、現在の七区として生まれ変わった。以前の建物はすっかり改築や新築され、立派な町並みになっている。

一区 坂口俊雄さん (大正十年生まれ) の話

昭和二、三年ごろ、今の七区より西側一帯の半分くらいは小松林であったが、養蚕が盛んになり桑畑に変わったものの、戦時となり福田軽飛行機会社、日産工場が出来て社宅や住宅が多くなった。また、八区の西側も一帯が桑畑であった。

さらに、奥の西側は雨量の多い時は土地が低い排水がきかず、甘藷や野菜も雨の多い年は、ほとんど作物の収穫がなかった。この一帯を水溜まりとも言っていた。今の経済連種鶏場に当たる横一帯は、大きな松もあった。

ここを越えて海の方が高地のためその水の下がり、くぼみになっていたのだろう。その辺の深い所には、鮒や鯉がいて、多くではないが捕ったことがある。砂丘には、「バリン」と言って、夏も枯れない雑草が生えていて、その当時の老人が、根こそぎ取ってきて「バリンホウキ」を作り、小遣い銭程度の格安で販売していた。

出典

鳥取県ホームページ [沿革/とりネット/鳥取県公式サイト](#)

地理空間情報ライブラリー 地図・空中写真閲覧サービス [地図検索表示画面](#)